

第 2 1 回
近江八幡市安土町地域自治区地域協議会
会議録

近江八幡市安土町地域自治区地域協議会事務局

第 21 回（平成 23 年度第 12 回）安土町地域自治区地域協議会 次第

日 時：平成 24 年 3 月 12 日（月）午後 2 時

場 所：安土コミュニティ防災センター2 階会議室

1. 開 会

2. 経過報告

3. 報告事項及び協議事項

(1) 学区まちづくり協議会について

(2) 地域協議会の活動実績について

4. その他（連絡事項等）

5. 閉 会

会議録

●会議の名称	安土町地域自治区地域協議会 第21回（平成23年度第12回）定例会
●開催場所	近江八幡市安土コミュニティ防災センター2階会議室
●開催日時	平成24年3月12日（月） 14:00～16:33
●出席者 （委員等）	大林輝男会長、安田惣左衛門副会長、井手吉ひろみ委員、大野きよ美委員、木下輝明委員、千貫昌一委員、藤井金次郎委員、藤井美智子委員、水音治郎委員
（事務局）	安土町総合支所 地域振興課…福永次長兼課長、七里課長補佐、森津主任主事、村上主任主事
●議題及び議事	
事務局	ただ今より、第21回安土町地域自治区地域協議会を開催します。 それでは、会議の開催にあたり、会長からご挨拶いただく。
会長	（あいさつ）
事務局	ありがとうございました。 なお、本日の会議について、地域自治区長は現在、議会に出席しているため欠席していること承知願いたい。 また、中島委員と宗野アドバイザーから会長宛て欠席の連絡があったが、「近江八幡市及び蒲生郡安土町の廃置分合に伴う地域自治区及び地域自治区の区長の設置に関する協議書」第11条第3項の規定により、会議が成立したことを報告する。 それでは、この後の議事については、会長にお願いする。
会長	規定に基づき議長を務める。 それでは、次第に基づき、前回の定例会以降の地域協議会の活動について、経過報告を行う。 2月27日に、本日の議題である「本会の活動実績の取りまとめ」について、会議運営及び広報編集の両部会合同で検討した。 その後、会議運営部会を開催し、本日の議題の最終確認をしたところ。 それでは、私からその概要について報告する。 まず、事務局から経過報告があり全員で確認を行い、今日までの活動のまとめについて意見を交わした。

基礎的な組織づくり、市長等からの諮問審議、合併協定項目・新市基本計画の進捗確認、合併後の地域課題の整理、自主的調査・建議、地域振興の支援、提案の6つの方針に整理し、今日までの活動の中から、各委員の意見を聞いた。

本日は、その整理後の資料に基づき審議をお願いします。

前定例会で住民から意見があった件については、本日の資料にもあるが、担当課と協議して回答をもらった。もう少し当会で精査検討して回答することとした。

その後、会議運営部会を開催し2件協議事項を決定した。

1点目は、これまでの取り組みを総括し、次期委員に引き継ぐことを議題とした。2点目は、安土・老蘇両学区まち協の報告とした。

また、その他として3月31日で第1期目の委員の任期が終わるため、新旧委員の引き継ぎをすることとした。事務局案では、4月の定例会で新委員の委嘱式が行われた後を検討しているが、現在調整中だ。

会長

ただ今の報告について、質問はあるか。

無いようなので次に進む。

次に、意見箱等に寄せられた住民からの意見については、図書館に寄せられていたので、本日付で受け付けた。この1件が、あったことを報告する。

回答については、次期委員の中で検討してもらえよう引き継ぎをするが、調整ができれば、現委員の責務で対応したいと考えている。

それでは、次第に沿って議事を進める。

学区まちづくり協議会について、まず、安土・老蘇のまちづくり協議会の設立に向けた取り組みについて説明願う。

老蘇学区では、今年4月からの設立に向けて、学区内の各自治会で説明会を開催されるなど、その準備も大詰めを迎えている。

また、安土学区では、先般、4回のワークショップを終え、いよいよ平成25年4月の設立に向けた取り組みが本格化しつつある。

本日は、それぞれの経過について、担当課から説明願う。

地域振興課

(全体の経過について資料に基づき説明)

地域振興課

(安土学区の経過について資料に基づき説明)

地域振興課

(老蘇学区の経過について資料に基づき説明)

会長

ただいま説明があったとおり、安土学区では4回のワークショップが終わり、

平成 25 年 4 月のまち協設立に向け準備されている。

老蘇学区では、3 月 30 日の設立総会に向けて地元説明会をされており、まち協設立の終盤に来ている。老蘇学区が一步進んでいるが、安土学区においても、今後、順次進められるだろう。

今後、当会としても支援できることについては、連携を密にして地域の振興発展に寄与したい。

ここで、本日事前に千貫委員から意見提案があったので、安土駅の取り組みに対する思いを説明いただく。

委員

このたび、安土駅が 100 年ぶりに新しくなる。駅は、まちづくりの核になるので、どんな駅にするか住民主体で考えてはどうかと思った。

約 20 人の有志で 4 回協議してきた。この会の目指すところは、要望だけでなく市と協働として、我々が駅に対して何ができるかを検討したい。

今後、駅のことに関わらず、こういった市民団体ができてくるだろう。その時、地域協議会や総合支所等が窓口となって情報共有できる体制を作ってほしい。

駅に関して、駅舎や広場などいろいろ検討すべき点があるが、限られた予算の中で、住民として何をどのような順番で設置するかなど、代案も含めて検討したい。

例えば、駅舎のデザインについて、大学と連携したり、募集したりしてはどうかと考えている。

駅は常楽寺区だけでなく安土全体の課題として、まち協で取り上げてもらいたい。安土学区は、まち協がまだ準備段階なので地域協議会で取り上げてもらいたい。

また、駅は安土学区に限らず地域全体のものなので、老蘇学区の方にとっても使いやすい方法も検討してほしい。

会長

安土駅については、地域全体のものとして、当会としても何らかの形で連絡調整を図りたい。

両学区まち協の件について、何か意見はあるか。

委員

各団体との調整会議の方向性について聞きたい。

地域振興課

体育協会（体協）、青少年育成区民会議、社会福祉協議会（社協）とそれぞれ実施してきた。まち協からは、それぞれ会長、副会長の 2 名体制で協議してきた。

3 つとも当面は今まで通り安土地域で活動する方向。

社協は、学区まち協に移行する大きな目的を持っている中で順序だてて進めて

いくが、現状では1つでやっていく考えだ。

体協については、まだ分かれては活動できないと判断されている。まちづくりは住民の考え次第なので合意形成できれば学区単位で活動されるが、現状ではまだ無理な状況だ。

青少年育成について、みんなで安土全域を見守る意識を持っている。段階を踏んで移行していく方向だが、現状では安土全域で実施することを確認している。

今後は、それぞれの考えを基に支援をしていく。

委員

体育大会は、両学区合同で実施するのか、学区ごとに実施するのか検討が必要だろうが、各団体が分裂することなく理解して実施できるといいと思う。

団体の合意形成により、活動が分かれていくことは、仕方の無いことだろう。

老人クラブ連合会は、分かれずに1つでやっていく方向だが、まち協の中で事業を取り入れていくことを考えないといけないだろう。

老蘇学区は、まちづくり計画を平成24年度に策定されるが、従来の取り組みを引き継いでいく考えのようだ。

安土学区は、これから策定される中でありかたの検討を願う。各団体の理解を得ながら取り組んでほしい。

委員

信長まつりは、本庁予算で実施されるが、市全体のイベントとして老蘇学区・安土学区が連携して取り組んでほしい。

委員

老蘇学区の会則について、議決機関と執行機関を分けたことは工夫されていると思う、総会について、どのように定義されているか。

地域振興課

第17条に規定している。

委員

総会の対象者は誰か。

第8条第3項の会員は誰を示し、会員は総会に出席しないのか。

地域振興課

会員は第5条に規定されているように、老蘇学区に居住する住民、地区内を活動範囲とする各種活動団体及び地区内の事業所、事務所の全てとなっている。

しかし、全員が総会に出席することは困難なので、住民代表として評議員が総会の構成員になる。また、評議員に加え、まち協役員及び第15条に規定される相談役と顧問も構成員になる。

委員

自治会に入っていない住民はどのような取り扱いになるのか。

副会長

自分の活動したい部会に参画してもらうことができる。

老蘇学区は、平成 24 年度は動きながら仕組みを構築していく予定だ。現在の規約等は、幹事によるたたき台なので、改善提案があれば随時取り入れていく。基本を決めて裾野は広げられるようにしている。

積極的にまちづくりに参加したい人は、部会に参画してもらい活動してもらおう。平成 24 年度 1 年かけて詳細を固めていく予定をしている。

事業計画について基本は示しているが、いろいろな意見を聞けるようにしている。

委員

安土学区の参考になるだろう。
他学区の取り組みも参考にしているのか。

副会長

良いところを取り入れている。

委員

旧市のまちづくり計画は、平成 22 年度からの 3 カ年計画のはずだが、老蘇学区の計画も 3 カ年計画では無いのか。

副会長

基本的には 3 カ年計画だ。平成 24 年度に計画を練り直して固め、平成 25 年度からの 3 カ年計画の策定を予定している。

地域振興課

旧近江八幡市では、従来の公民館から看板が代わっただけのところもあり、まち協への移行もスムーズな面もあった。

安土学区と老蘇学区に関しては、何もない初めからのスタートなので重圧が大きいだろう。まちづくりにストレスがあってはならない。

本来なら、計画策定後にまち協がスタートするものだが、老蘇学区は、まち協で事業を実施することを前提にしているし骨格もできているので、走りながらの計画づくりも可能である。

老蘇は、3 年ごとの計画も見据えて、平成 24 年度に策定されるので、他のまち協と同様の扱いと理解している。

委員

評議員は、各自治会から選出されるとなっているが、自治会長なのか自治会長から推薦者された代表者が評議員となるのか。

地域振興課

初めてのことなので、平成 23 年度自治会長と平成 24 年度自治会長にお願いしたい。現在、8 自治会の新旧自治会長にお願いされているところ。

今後は、自治会長推薦の代表者となることもあるかもしれない。

委員

規約上では、自治会長と規定されている。

地域振興課	お見込みの通りであり、現在、各自治会長にお願いをされている。ただし、規約案は総会前のものであり確定ではない。
委員	将来的には、改正を予定しているのか。
地域振興課	何もかも自治会長が役員に充てられている自治会もあるので、弾力的に考えてもよいだろう。自治会内で情報共有してもらえばいい。
委員	執行機関には会員全員が入るのに対し、議決機関には自治会しか入らないことについて違和感がある。各種団体の代表者も何人か入れた方がいいのではないのか。
副会長	<p>予算案は執行機関が作る。自分たちの事業案に対して、総会で予算を承認してもらうことになる。</p> <p>自治会から選出された委員が、各部会にも所属するので自治会と部会は連携できる。</p>
委員	各団体が事業を計画しても、評議員会で認められなければ、実施できなくなる可能性があるのではないのか。
副会長	部会長は、総会に出席するので、総会で異論が出た場合に説明することができるような仕組みである。
地域振興課	部会が活動しないと、まちづくり支援交付金は交付されない。常に自治会と連絡調整をしながら実施しないと部会活動はできない。
副会長	<p>3月18日に、老蘇学区の新旧自治会長に評議員について説明する。</p> <p>自治会との連携は根本的なつながり。部会構成は、個人・団体などのあらゆる方に参加いただく。</p>
委員	<p>自治会が主体となることは理解できる。しかし、まち協は自治会を超えた学区の取り組みなので、その特長を活かした仕組み作りは必要だろう。</p> <p>自治会のみで議決機関を構成すると、今までの自治会活動との違いが見えにくい気がする。</p>
地域振興課	<p>老蘇学区の評議員は16人で構成される。執行機関として総会に参加する正副会長や部会長も同数程度になる予定だ。</p> <p>この4月に立ち上げるに当たり、現時点で、地域を代表する方で最も相応しい</p>

方が自治会長である現実もある。また、いずれ活動に応じて会費をいただく場合、自治会にお願いすることになることを考えると、自治会長が適任となった。

この仕組みを、そのまま安土学区に適用できるかは別の議論となるが、一つの考え方にはなるだろう。

会長

3月市議会でまちづくり支援交付金の質問があった。

人口割合に応じて1,540万円を上限に、まち協未設置の安土学区で500万円、3,000世帯以下の老蘇学区は870万円の交付と聞いたが確定か。

地域振興課

そのことは、議会ではっきりと答弁された。

名実ともにまち協にならないと交付されないが、老蘇学区については、4月1日にはまち協が立ち上がっているので問題ない。

委員

本日の意見も踏まえ、学区の特色あるまちづくりを進めてほしい。

当会としては、どのように支援するかは今後の課題だが、前向きに早期に進めてもらうことを望む。

会長

それでは、本件については以上とする。

次に、本会の活動実績についてだが、この件については、前回の定例会で基本的な方向性を確認し、その後、先ほどの報告にもあったとおり、先日の合同部会の中で、6つの基本方針ごとのまとめを確認した。

それでは、事務局から説明願う。

事務局

(資料に基づき説明)

会長

当会の約2年間の活動について整理してもらった。この内容については、みな
の意見を聞いて取り上げた内容になっている。本日、活動の総括を全員で確認し
共通認識したい。

その結果を市長に報告し締めくくりたい。

また、併せて委員のみなさんの2年間の活動について、一言ずつ想いを述べて
いただきたい。

委員

文中の表現について、市長からの諮問を市長等からの諮問と表現を統一とする
べきだろう。

事務局

そのように修正する。

会長

文言を整え、市長へ報告する。事務局には、市長訪問の日程調整を頼む。

最後に、委員のみなさんから一言ずつ言葉をいただきたい。

委員

総括については、資料のとおりでよい。

意見箱のように地域からの意見を吸い上げることに工夫が必要なことは、自分自身の活動でも課題と感じた。自分が属しているグループの声をどのように伝えるべきか悩んできた。

少数だが、意見箱で意見を聞くことができたし、時期は少し遅かったが、出前協議会でも意見を聞くことができ、地域の意見を聞く足掛かりができたことは良かった。

出前協議会で団体から意見を聞くだけでなく、今後は、定例会の時間や場所を変えることで当会の活動を知ってもらったり、傍聴しやすくなるような工夫が必要と感じた。

2年間良い勉強になった。

委員

不安もあったが、たくさんのことを勉強した。

まちづくり協議会にも参画している中で、幹事にどれだけの権限があるのかと問われた。代表者が作ったたたき台について、批判だけすることは簡単だ。しかし、みんなが一生懸命参加するためには、たたき台をつくり、広報啓発して、みんなの意見を取りまとめる、そのための地域のリーダーが必要と感じた。

地域のリーダーになりそうな人を見つけたら、まちづくりに参画してもらえようそっと肩を押ししたいと思う。

意見箱の設置や出前協議会をするまでの意識統一などの苦勞と地元の意見を聞く大切さについて、市長への報告に入れていただけると我々の活動が市長に伝わりやすいただろう。

委員

この2年は、研修と情報収集に費やされたように感じる。今後、当会としては、住民の声を聞いて政策提案できるような取り組みが必要と感じた。

今後のこととして、まちづくりの原点に戻った地域のまちづくりも当会で取り上げていきたい。

また、防災面ももっと取り上げた方が良かった。

今後もまちづくりに参加したい。

委員

まち協は小学校区単位だが、中学校区での自治を進めることも大切。その意味で当会の意義は大きいと感じる。可能であれば、地域協議会制度を近江八幡市全域に広げたい。

第1期で当会の土台はできたと感じる。このメンバーは特定の団体から選出されたわけではないので、自由に議論ができたことは良かった。一方、課題の抽出という点が弱かった気がする。

出前協議会で、住民との意見交換をもっと早くできなかったことは反省点だ。また、開催は会社員や主婦には参画しにくい時間帯であった。誰でも参画できる運営形態の検討が必要と感じた。

また、予算の決定は議会にゆだねられるが、自治を進める中で、予算要求時に住民にとって必要なことを考え、当会が参画できる仕組みが協議できたら良かったと思う。

委員

2年間を振り返り、地域協議会のあらましをもう一度読んでみた。

当会は、市行政に提案や意見を具申し、住民と行政をつなぐ役割を期待されている。

当会は、合併の不安解消が目的で設置されたものだが、主体的に、意見箱の設置や出前協議会の実施で住民の意見を集めてきた。

そういった活動を進める中で、行政が当会に意見を問うことが増えてきた。当会の意見が重要と認識されてきたように思う。

地域協議会の役割は、この地域を活力にあふれる住民参加のまちにすることであり、そのためにまち協を早く立ち上げることになった。限られた期間で、取り残されることなく役割が果たせたと感じる。

老蘇学区は住民総意で設立されるので頑張してほしい。

課題については、次に引き継ぐが、出前協議会で出向くだけでなく、定期的に定例会に来てもらう方が多くのことを解消できるのではないかと感じる。そこで出された意見を当会から行政に対し、提案協議することが必要だろう。

また、広報による情報提供は2か月に1度では住民に浸透しにくいだろう。少し頻度を上げた方が良かったのではないか。

次の2年間は、安土の良さを見つけ提案していくようになってほしい。そしてそれを市の事業に反映させてほしい。政策提案する協議会になってもいいだろう。

全国にまれにみる協議会だと思う。これからは、新しい協議会のあり方を発信してもいいだろう。

委員

合併から新市のまちづくりに関わったことは名誉なことだ。しかし、住民代表として重責を感じることもあった。

赤こんバスが安土地域を走っているのを見て、誰かの役に立っている喜びを感じる。課題はあるが、今まで無かったことができたことに携われてよかった。

当初、合併の不安の声も聞いたが、徐々に落ち着いてきたように思う。新しい市の形ができてきた。

また、出前協議会を行って、各団体からはもう少し早く実施してほしいとの声もあり、団体と市の調整がまだ進んでいない面も感じた。そこに当会の力が必要とされている声もあった。このことは、次に引き継ぎたい。

委員

今後、まち協と当会の連携がますます重要だろう。安土に住み安土の方を想って取り組んだ2年間は貴重な時間だった。

現在、まち協は具体的に積み上げながら進んでいる。当会からもまち協の委員に参画してもらい貴重なご意見、ご指導をいただいた。安土学区は後1年あるので新しい当会委員の派遣にも協力願いたい。

また、まち協の全体会においても任期があり交代される方もいるが、この1年一緒にやってきたので、設立まで協力願いたいとお願いしてきたところだ。

毎回、両学区の進捗を聞いているが、具体的にまち協が進むにつれて、そこで抱える問題をこの会につなぐことが重要。経過報告だけでなくそれぞれのまち協の代表者から意見を聞いて、当会で期を逃さず対応策を考える活動が求められると考えるので、次期に位置付けてほしい。

合併調整項目の一部が未調整であることについては、何に行き詰っているか具体的に意見を聴取し取り上げることが大切だろう。

自主活動は第2期の重点項目となるだろうが、何をテーマにするか意識的にとらえ、当会で協議、建議し一歩進んだ活動ができればいいと思う。

副会長

合併協議会委員であり経過を知っていたので大変だという思いがあった。新市基本計画、合併調整項目、諮問などが役割としてあったが、実際に進めるのは大変だった。

住民の意見を聞いたまちづくりが大切であり、ようやく見えてきた。まちづくりの場を使い住民の意見を聞けるだろう。

次期には、真の課題が出てくるのではないか。

自治会長連絡会、まちづくり協議会、地域協議会と様々な団体がある。それぞれの役割で市民に浸透させることが必要だろう。当会だけの役割ではなく、3つの組織がそれぞれの機能・役割を市民に浸透させないといけない。それぞれが正しい意見を正しい場所に集約させる必要があるだろう。

出会いというのは勉強になる。

会長

当会の会長としては、感謝に尽きる。

それぞれの立場から当会の委員になり、地域のことを思いながら議論されてきた。最後は、当会の果たす役割を重んじて共通認識ができた。

住民の意見を聞くため意見箱設置や出前協議会もできた。このことは、委員の自主的な意見から始まったことであり、前向きな活動ができた。

この2年間、事例の無い中で対処してきた。各方面からの支援に感謝する。

このことについては、市長への報告に併せて伝えたい。そして、何かあれば当会に聞いてほしいとも伝える。

まち協については、安土地域にとって良かったとなるようにしてほしい。また、

安土の活動が市全域に広がるように情報発信してほしい。

当会としては、今後、まち協の場を借りてでも多くの人意見を聞いて、当会として検討を加えて発展させてほしい。

次の委員が我々と同じ目線で共通認識し、協議会の発展を願ってパトタッチできるような責任もって引き継ぎたい。

宗野アドバイザーからは、本日出席できないので文書を預かっている。また、みんなで気楽に話し合える場を設けたい。本日は、書面をもって代えさせていただく。

事務局

合併して、融和が必要だが、まだまだ行政側に安土に対する認識不足があると感じる。市全体からみた、安土の良質な素材を活用し、政策立案することを希望するなどの内容を報告に加えてはどうか。

会長

当会の運営を想う気持ちは、委員も行政も一緒だ。ただ今の提案も含め、内容を精査したい。

委員

委員は交代するが、当会の活動が途切れることのないように願う。

会長

それでは、本日予定していた議事についての協議を終わる。

その他委員のみなさんから何かあるか。

無いようなので、最後に事務局から連絡事項をお願いする。

事務局

地域自治区長が出席するのが本意だが、市議会本会議のため欠席しているのでお礼の言葉を代読させていただく。

(謝辞代読)

私からも、お礼を言いたい。

4月に着任して、先日も市長初め幹部にも伝えたが、安土の方は素直でまじめだ。まち協が立ち上がったのは、地域協議会の側面支援と協力があったからと感謝している。

みなさんは知識とアイデアをお持ちなので、今後とも、まち協や自治会活動に参画してもらい市民に対して助言とリーダーシップを発揮してもらいたい。

会長

地域自治区長の事情は了解している。当会からのお礼も伝えてほしい。

事務局

次回定例会は、申し合わせでは第2月曜日の4月9日となるが、現時点では未定だ。また、確定ではないが、定例会後に新旧委員の引き継ぎの場を設けたいと

考えているので予定をお願いする。

日程は、確定しだい連絡する。

また、地域協議会だよりの編集会議を行うため3月22日午後2時から、広報編集部会を開催する。

会長

任期交代の時期なので調整が必要になるだろう。日程が変わる場合も、みなさんよろしく頼む。

引き継ぎも途切れることなく計画されているが、我々のやってきた活動と委員の意見をしっかり引き継いで、さらに地域協議会が発展するようお願いしたい。

それでは、本日の会議を終了するにあたり、安田副会長から挨拶を願う。

副会長

(あいさつ)

【終了 16:33】

会議録作成

近江八幡市安土町地域自治区事務所

地域振興課 地域振興グループ

TEL: 0748-46-3141 FAX: 0748-46-5320

E-mail: 390100@city.omihachiman.lg.jp